

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	24226003	研究期間	平成 24 年度～平成 28 年度
研究課題名	ナノスロットレーザの極限的な光局在を利用する超高感度バイオマーカーセンサ	研究代表者 (所属・職) (平成27年3月現在)	馬場 俊彦 (横浜国立大学・大学院工学研究院・教授)

【平成 27 年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、ナノスロットレーザをバイオマーカーセンサに応用するものであり、(1) ナノレーザの物理の探究、(2) バイオセンシングシステムの開発、(3) 高性能バイオマーカーセンシングの3つの課題から成る。特に、(3) について顕著な成果を上げている。(1) に関して、ナノスロットモードの物理的探求については、今後の研究開発に期待するところもあるが、(2) については1万個のナノレーザを集積化して統計処理、流路製作、可搬型測定系試作などの成果を上げている。このように、当初目標に向けて順調に研究が進展しており、これらの成果は国際的にも評価の高いジャーナルに掲載されている。</p>	